【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成26年8月28日(2014.8.28)

【公表番号】特表2013-512322(P2013-512322A)
【公表日】平成25年4月11日(2013.4.11)
【年通号数】公開・登録公報2013-017
【出願番号】特願2012-541461(P2012-541461)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｇ　18/34　　(2006.01)
Ｃ０８Ｊ　 5/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｇ　18/34　　Ｚ
Ｃ０８Ｊ　 5/04　　ＣＦＦ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成26年7月10日(2014.7.10)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ）ジ－又はポリイソシアネート、
ｂ）イソシアネートに対して反応性の基を少なくとも２つ有する化合物、
ｃ）触媒、
ｄ）官能性が２以上の多塩基酸、及び任意に、
ｅ）更なる補助剤、及び添加剤
を含み、多塩基酸は沸点が、標準圧力で、少なくとも２００℃であり、及びイソシアネートに対して反応性の基を少なくとも２つ有する化合物に溶解性であることを特徴とするプルトルージョン樹脂系。
【請求項２】
多塩基酸の酸価が、５０～１０００ｍｇＫＯＨ／ｇであることを特徴とする請求項１に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項３】
多塩基酸（ｄ）中の、酸素原子の炭素原子に対するモル割合が少なくとも１／５であることを特徴とする請求項１又は２の何れかに記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項４】
多塩基酸（ｄ）が、少なくとも二塩基酸から、及び酸に対して反応性の基を有する化合物から誘導される縮合物であることを特徴とする請求項１～３の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項５】
イソシアネートに対して反応性の基を少なくとも２つ有する化合物（ｂ）及び多塩基酸（ｄ）の合計質量に対する、多塩基酸（ｄ）の割合が０．１～１０質量％であることを特徴とする請求項１～４の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項６】
多塩基酸（ｄ）が、イソシアネートに対して官能性を有する、少なくとも１つの更なる基を有することを特徴とする請求項１～５の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。

【請求項７】
使用するジ－及びポリイソシアネート（ａ）が、平均官能性が２．１～２．８のポリマー性ＭＤＩを含むことを特徴とする請求項１～６の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項８】
イソシアネートに対して反応性の基を少なくとも２つ有する化合物（ｂ）は、平均官能性が２～４で、及び第２級ＯＨ基の含有量が少なくとも５０％である、ポリエーテルオールを含むことを特徴とする請求項１～７の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項９】
イソシアネートに対して反応性の基を少なくとも２つ有する化合物（ｂ）の平均ＯＨ価が、１００～１０００ｍｇＫＯＨ／ｇであることを特徴とする請求項１～８の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項１０】
成分（ａ）～（ｅ）を混合した直後の粘度が、２５℃で１５００ｍＰａｓ未満であることを特徴とする請求項１～９の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項１１】
標準圧力で、沸点が２００℃未満である物質を、２．０質量％未満の量で含むことを特徴とする請求項１～１０の何れか１項に記載のプルトルージョン樹脂系。
【請求項１２】
請求項１～１０の何れかに記載のプルトルージョン樹脂系を混合し、そしてファイバー材料がこの混合物でぬらされ、そして硬化されることを特徴とするプルトルージョン物を製造する方法。
【請求項１３】
ぬらされたファイバー材料が、ダイを通して引き出され、そして硬化され、及びダイの温度が１５０℃～２５０℃であることを特徴とする請求項１２に記載の方法。
【請求項１４】
ぬらされたファイバー材料がダイを通して引き出される取出速度が、１ｍ／分を超えることを特徴とする請求項１２又は１３の何れかに記載の方法。
【請求項１５】
ファイバー材料の含有量が、３０～９０質量％であることを特徴とする請求項１２～１４の何れか１項に記載の方法。
【請求項１６】
請求項１２～１５の何れかに記載の方法によって製造することができるプルトルージョン物。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３０】
ここで酸は、ｐＫａ値が１５未満、特に好ましくは７未満、特に４未満の任意の物質である。ここで、ｐＫａ値は、第１プロトンの分離に関る。多塩基酸（ｄ）が、カルボン酸基、ホスホン酸基、リン酸基、及びスルホン酸基から選ばれる、少なくとも１種の酸性基を含むことが好ましい。多塩基酸（ｄ）は、少なくとも２つの酸性基と一緒に、イソシナネートに対して反応性の基、例えばＯＨ基、ＳＨ基、ＮＨ基、又はNH_2基を含んでも良い。多塩基酸の酸価は、好ましくは５０～１０００ｍｇＫＯＨ／ｇ、特に好ましくは８０～９００ｍｇＫＯＨ／ｇ、及び特に１００～８００ｍｇＫＯＨ／ｇである。多塩基酸がヘテロ原子、特に酸素を高割合で有することが好ましい。例えば、酸中の酸素の炭素に対する割合は、少なくとも１／５（１：５）、特に好ましくは少なくとも１／４（１：４）である。これらの酸（ｄ）の例は、多塩基酸から、及び酸に対して反応性の基を有する化合

物から誘導される縮合物である（これらの多塩基酸と化合物は、水を除外して反応し、縮合物を与える）。縮合物を製造するために使用することができる多塩基酸の例は、多塩基カルボン酸、例えば脂肪族多塩カルボン酸、例えばコハク酸、グルタル酸、アジピン酸、スベリン酸、アゼライン酸、セバシン酸、デカンジカルボン酸、マレイン酸、フマル酸、又は芳香族多塩基カルボン酸、例えばフタル酸、イソフタル酸、テレフタル酸、ナフタレンジカルボン酸、及びこれらの異性体、又は無機酸、例えばリン酸である。酸に対して反応性の基を有し、及び縮合物を製造するために使用される化合物の例は、イソシアネートに対して反応性の基を有する（ｂ）について記載した化合物の任意のもので、好ましくは、アルキレンオキシドに基づくポリエーテルオール、ポリエステルオール、及び低分子量化合物、例えばエチレングリコール、ジエチレングリコール、グリセロール、トリメチロールプロパン、ペンタエリチリトール、シュガー誘導体、例えばスクロース、ヘキシトール誘導体、例えばソルビトール、メチルアミン、エチルアミン、イソプロピルアミン、ブチルアミン、ベンジルアミン、アニリン、トルイジン、トルエンジアミン、ナフチルアミン、エチレンジアミン、ジエチレンジアミン、４，４’－メチレンジアニリン、１，３－プロパンジアミン、１，６－ヘキサンジアミン、エタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、及び他のジ－又は多塩基アルコール、又はアミンである。ここで、多塩基酸から、及び酸に対して反応性の基を有する化合物から誘導される縮合物中に、イソシアネートに対して反応性の基が残っているべき場合が意図される場合、縮合反応は、酸に対して反応性の基の一部、特にヒドロキシ基の一部が、（縮合物を与えるために）酸と反応することがないように行われる。